

会員だより

残暑の上村農園から

ご挨拶、

今年の夏は殊のほか暑かったです。その中でゴージャクだけが生き活きとしていました。他の野菜は世話人なしでは息絶え絶えでした。でも生物は次の世代を残そうと一生懸命頑張っている様子をお伝えします。

服部の越瓜

しろうりと読みます。



摂津峡 近くの農家は地元伝統野菜として大事に育て、販売先も料理法も広げておられます。この地域は芥川上流の清流と温度が安定していて、水はけも良くこの瓜の栽培に適しているそうです。その上富田や伏見の酒どころ、酒粕を使った富田漬や清水漬として賞味されています。江戸時代には徳川家康が賞賛したとか。素人の私達もこの種で栽培し、真似事で粕漬や浅漬を楽しんでいます。

写真の瓜が我が家の次世代を育てる種瓜です。冬まで保存出来るので冬瓜と名がつけました。

去年の堆肥から勝手に



に芽をだして、見事に結実、どつ

かりと大地に横たわって居ます。和風、中華風、洋風なんでも合い、便利な野菜です。我が家ではカレー・シチュー・味噌汁の具にも重宝しています。来年は何処で芽を出すやら。

リースの花といわれるカラス瓜の花です。

今年も同じ場所での次世代を残していたのでほっとしました。夜の8時頃から見事に花開き、翌朝には嘘のようにしぼんでいきます。蛍光色のように白さと多分虫達にしか



分らない匂いを発して居るんではと思

秋には朱色の実が私達に懐かしさを感じさせてくれるでしょう。S・U

“昔昔の電話の話”

昭和10年代の大阪の電話は、半分くらいは自動化されていたと書きましたが、当時の状態について少し書いてみます。若い人たちは洋服を着ていましたが、既婚の女性にはほとんどが着物でした。当時20歳までには大体結婚してしまっていたから周囲は和服ばかりです。電話局はお役所というこ

ともあって、着物の場合は袴を穿きます。それが私たちの憧れでもありました。少女歌劇のスターのように袴を少し短めに穿き、白い足袋で足首を5センチメートルくらい出し颯爽と歩いたものです。袴を胸高に穿く人もいました。少し低めに穿くのが粋だという風潮が(当時の私たちの局では)あって、新米の私たちも先輩の真似をして袴が通勤着としていました。別

に、仕事中は職服とあって白い上着が支給されました。希望により和服用と洋服用が選べます。

南分局は堺筋の道頓堀北詰を少し北に寄った八幡筋にありました。大阪の近郊、住吉に住んでいた私は難波から南海電車を利用してました。

帰りはいつも友達と連れ立って道頓堀から千日前をとおり喫茶店や、甘いものの店に入ります。法善寺横町の夫婦善哉も行きつけのお店でした。南の繁華街の真つただ中から誘惑は一杯ありま

すから誘惑は一杯ありまべ歩きや、映画館ですが、お小遣いがいくらあっても足りません。苦労したものです。電話の仕事は24時間休みなしです。従って、私たちの勤務も昼間だけではありません。早出(7:30~15:30)、日勤(8:30~16:30)、宵勤(14:00~21:00)、宿直(16:00~翌日8:30)、その日は休み(宿明)、休暇、の組み合わせで作られていました。休暇は7日に1回です。勿論日勤専門の人もあり、事務系の人は普通の会社員と変わりありません。出すのは南京虫です。

電話の仕事は24時間休みなしです。従って、私たちの勤務も昼間だけではありません。早出(7:30~15:30)、日勤(8:30~16:30)、宵勤(14:00~21:00)、宿直(16:00~翌日8:30)、その日は休み(宿明)、休暇、の組み合わせで作られていました。休暇は7日に1回です。勿論日勤専門の人もあり、事務系の人は普通の会社員と変わりありません。出すのは南京虫です。

「小さい秋み~つけた！」

この夏の酷暑も、やっと終わりを告げ、この2、3日の涼風に秋の気配が感じられます。まだ残暑は残りますが、母の初秋の作品を壁に掛けました。 Y・I



初秋のタペストリー

私の、木綿のキルトのタペストリーも、梅雨の時期から夏を過ぎ、初秋の完成となりました。

道頓堀といえど都会の真ん中ですから、南京虫はたくさんいました。宿直では早寝と中寝と遅寝があり交替で仮眠をとります。当時ベッドはなく畳の部屋に布団を敷いて寝ます。その布団を囲んで南京虫の虫捕り器をおいておき、遅寝の人が朝起きると、その虫捕り器を2本、かちかちと打ち合わせて、木の間に潜んでいる南京虫を追い出しつぶすのです。今思うと随分原始的なことをしていたと思えますが、それで誰も苦情を言いませんでした。

私は日本橋に叔父の家があり、夏休みにはよく泊りがけで遊びに行きました。叔父は印材(印鑑の材料)を扱う仕事でしたので中国や台湾から材木を輸入しており、そのため南京虫がたくさん居ると言うことでしたが、家の人はあまり喰われないう、「お客さん虫だ」喰われるのは田舎者だと言われたことがありました。虫にも免疫ということが有るのでしようか。(まだ続きます。乞ご期待) F・M